

平成 28 年度第 2 回全国科学博物館協議会理事会・総会
及び第 24 回研究発表大会 開催要項

1. 趣 旨 科学系博物館に共通する課題や各館の活動成果について発表及び協議し、学芸員等博物館専門職員の活動の一層の充実に資する。
2. 期 日 平成 29 年 2 月 16 日(木)・17 日(金)
3. 主 催 全国科学博物館協議会、京都鉄道博物館、一般財団法人全国科学博物館振興財団
4. 会 場 京都鉄道博物館 (京都府京都市下京区観喜寺町)
5. テーマ 「地域文化の核となる博物館～それを実現する資質能力」
6. 日 程

2 月 16 日 (木) 平成 28 年度第 2 回理事会・総会、懇親会

(11:30～理事会受付)

12:00～13:15 理 事 会 【京都鉄道博物館 本館 3 階ホール】

(13:30～総会受付)

14:00～ 総 会 【京都鉄道博物館 本館 3 階
ホール】

14:00～14:10 開催館挨拶

14:10～14:55 議事

14:55～15:15 全科協海外視察報告

15:15～15:30 文部科学省博物館振興施策等概要説明

15:30～15:40 《 休 憩 》

15:40～16:40 記念講演「想像するちから：チンパンジーが教えてくれた人間の心」

京都大学特別教授・公益財団法人日本モンキーセンター所長 松沢哲郎氏

16:40～17:30 施設見学

17:45～19:15 懇 親 会 【京都鉄道博物館 本館 2 階レストラン】

2 月 17 日 (金) 第 24 回研究発表大会

(9:30～大会受付)

10:00～10:05 開会挨拶

10:05～10:50 講演「地域と歩む鉄道文化拠点」

京都鉄道博物館 遠山由希子氏

10:50～11:00 《 休 憩 》

11:00～11:45 講話「ICOM 国際委員会への参加のススメ」

① ICOM 国際委員会とは (国立科学博物館 小川義和氏)

② ICOM-NATHIST 参加の経験から (兵庫県立人と自然の博物館 三橋弘宗氏)

③ ICOM-ICR 参加の経験から (吹田市立博物館 五月女賢司氏)

11:45～13:00 《 昼食・休憩 》 ※維持会員からの情報提供

※ポスターセッション (コアタイム 12:20～12:50 予定)

13:00～ 事例発表(分科会形式 詳細は別紙 16:00～まとめ)

16:30～ 自由見学(閉館 17:30) ※内容は変更になる場合があります。

第24回研究発表大会

大会テーマ：地域の核となる博物館～それを実現する資質能力

口頭発表詳細

日 時：平成29年2月17日（金） 13:00～16:00

【A会場】京都鉄道博物館 本館3階ホール（進行：千葉市科学館 高安礼士）

13:00～ 研究発表① 展示室はフィールドへの誘いの場。“本物を利活用する！”、そこにミュージアムの本質があり、地域の活性化と地域文化創出・発展の起点が芽生える。

（千葉県立中央博物館 分館 海の博物館 新 和宏）

13:20～ 研究発表② 生命科学教育のハブをめざして～名古屋市科学館「生命ラボ」の事例

（名古屋市科学館 尾坂知江子）

13:40～ 研究発表③ 大学博物館における特別支援学校及び院内学級への教育支援活動への取り組み

（琉球大学博物館（風樹館） 佐々木健志）

14:00～ 研究発表④ ヒメダカによる在来種メダカの遺伝的汚染の調査および、地域個体群を利用したメダカの教材化

（橿原市昆虫館 野川裕司）

14:20～14:30 《 休 憩 》

14:30～ 研究発表⑤ 千葉市科学フェスタとその課題～地域に科学を根ざす人材育成の取り組み～

（千葉市科学館 森井映美子）

14:50～ 研究発表⑥ 県内巡回展示を通して行う地域連携

（岩手県立博物館 望月貴史、岩泉町民会館 田鎖康之、大船渡市立博物館 白土 豊、久慈琥珀博物館 工藤 彩、三陸ジオパーク推進協議会 関 博充、国立科学博物館 濱村伸治）

15:10～ 研究発表⑦ 普及と映像資料収集の両立～「きしわだネイチャー探訪」の取り組み～

（きしわだ自然資料館 風間美穂）

15:30～ 研究発表⑧ プラネタリウムを通じた地域連携や国際交流の取り組み

（つくばエキスポセンター 佐藤大亮）

16:00～ 研究発表まとめ

【B会場】京都鉄道博物館 本館2階企画展示室（進行：国立科学博物館 小川義和）

13:00～ 研究発表① 災害資料収集・保存の現状と課題 一人と防災未来センター資料室の事例から

（阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター 杉本弘幸）

- 13:20～ 研究発表② 絵本を契機とした博物館利用の促進——「えほん meets 博物館」の実践と波及
(国立科学博物館 神島智美)
- 13:40～ 研究発表③ 科学博物館は自然災害をどのように伝えていくべきか
(磐梯山噴火記念館 佐藤 公)
- 14:00～ 研究発表④ 京町屋を自然史系博物館に～自然史レガシー継承・発信事業の試み
(兵庫県立人と自然の博物館 高野温子)
- 14:20～14:30 《 休 憩 》
- 14:30～ 研究発表⑤ 大村智博士のノーベル賞の受賞を受け、地元科学館としての取り組み
(山梨県立科学館 上野元嗣)
- 14:50～ 研究発表⑥ チルドレンズミュージアムにおける、コンピュータや先端技術を用いたワークショップの考察「トレイントレイン わーくしょっぷ」を事例として
(キッズプラザ大阪 新堀孝明)
- 15:10～ 研究発表⑦ 博物館展示における「ことば」の役割を探る
(神奈川県立生命の星・地球博物館 広谷浩子)
- 15:30～ 研究発表⑧ 当館の来館者層を意識した企画展の開催 —ポップカルチャーなど取り入れた展示構成の工夫を通して—
(ミュージアムパーク茨城県自然博物館 中川裕喜)
- 16:00～ 研究発表まとめ (A会場にて実施)

第24回研究発表大会

大会テーマ：地域の核となる博物館～それを実現する資質能力

ポスターセッション 詳細

コアタイム時間：平成29年2月17日（金） 12:20～12:50

【会場】（京都鉄道博物館 本館3階ホール）

- ・奈良県内におけるオオサンショウウオの生息調査
（橿原市昆虫館 野川裕司）
- ・複合施設を生かした展覧会 カガクのトビラ「ふしぎなかがみ～わたなべちなつ
絵本展～」
（大垣市スイトピアセンター 早崎由起）
- ・「ヨソの館」から「オラの館」へ
（豊橋市自然史博物館 安井謙介）
- ・多様なニーズに対応するためのアウトリーチ事業の実施－移動博物館を中心に－
（ミュージアムパーク茨城県自然博物館 潮田好弘）
- ・博物館所蔵ボーリング標本を用いた学校向け貸し出し教材の開発・運用による地
学教育支援
（大阪市立自然史博物館 石井陽子）
- ・2016年新潟県糸魚川市駅北大火の地理的背景と地域博物館の役割
（フォッサマグナミュージアム 竹之内耕・小河原孝彦・茨木洋介・宮島 宏、
磐梯山噴火記念館 佐藤 公）
- ・地域の核として信頼されるために：行動規範を館の活動に活かすポイント
（大阪市立自然史博物館 佐久間大輔）